

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 604 事業名 救急救命士・標準課程資格救急隊員養成事業（救急救命士等の養成等）

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計		一般会計
	款		消防費
	項		消防費
	目		消防費
	大事業		消防事業
事項		救急高度化等推進整備事業	

分野別目標	1	安心して、安全に暮らせるまち
政策	2	消防・救急救体制の充実
施策	3	救急・救助体制の充実
取組	2	救急・救助隊員の資質向上

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間		～
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	警防課	大浦 正男 (428-0119)
関連課		

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実		
市民の健康環境の充実		道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実		
総合的な子育て環境の充実		総合防災体制の充実	○	美味しい和歌山市イメージの充実		
その他		その他		その他		

1 事業概要及び実施内容

事業目的（「誰・何」をどのような状態にする」ための事業か）	事業内容				
助けて欲しい、一刻も早く医療機関へ連れて行って欲しいという市民の思いに応えるため、救急救命士を含む救急隊員の養成及びスキルアップを図るため絶え間ない病院実習を含めた研修を行います。	①救急隊員を約7か月国の研修機関へ派遣し、救急救命士を養成します。また、有資格者を採用し、年間3人程度の新救急救命士確保を目指します。②拡大された応急処置である薬剤（アドレナリンという強心剤）投与ができる救急救命士を再教育するため国の研修所へ派遣します。③最も確実な気道確保である気管挿管を行う資格を得るため、病院実習に救急救命士を派遣します。これは、医大、日赤病院の手術室で患者さんの理解を得て、気管挿管実習30症例を行うことが義務付けられています。みなさんのご協力をお願いします。④平成24年度には、研修を受けた新たな救急救命士がア 心肺停止前の輸液、イ 重症喘息患者への気管支拡張薬投与、ウ 血糖値の測定、ブドウ糖液の投与を行うための実証地域として名乗りを上げ、指導者を養成するとともに、早期に拡大3項目の処置が行えるようにします。⑤救急隊員養成のため県消防学校へ職員を派遣します。				
実施内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	○救急救命士養成所へ2名派遣 ○救急救命士資格採用3名 ○気管挿管病院実習へ2名派遣 ○薬剤投与認定救命士養成2名 ○救急救命士再教育へ25名派遣 ○県消防学校救急科へ12名派遣	○救急救命士養成所へ2名派遣 ○救急救命士資格採用1名 ○気管挿管病院実習へ2名派遣 ○薬剤投与認定救命士養成2名 ○救急救命士再教育へ25名派遣 ○県消防学校救急科へ13名派遣	○救急救命士養成所へ1名派遣 ○救急救命士資格採用2名 ○気管挿管病院実習へ8名派遣 ○薬剤投与認定救命士養成2名 ○救急救命士再教育へ58名派遣 ○県消防学校救急科へ10名派遣		

2 事業コスト

事業費 千円	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度			
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算	
	事業費	6,151	6,772	6,129	6,131	7,065	7,227	7,337		7,337		
	伸び率 (%)	-	-	-0.4%		-35.9%		0.0%		0.0%		
	人件費	常勤職員	7,983	8,022	10,123	7,611	7,031	6,974	6,323		6,323	
		非常勤職員	53	152			75	75	1,505		1,505	
	小計	8,036	8,174	10,123	7,611	7,106	7,049	7,828		7,828		
	国庫支出金											
	県支出金											
	市債											
その他												
一般財源(税等)	6,151	6,772	6,129	6,131	7,065	7,227	7,337		7,337			
所要人数	常勤職員	1.04	1.05	1.32	1.01	0.93	0.92	0.84		0.84		
	非常勤職員	0.04	0.07			0.04	0.04	0.6		0.6		

3 目標及び実績

指標名及び達成状況				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
活動指標	薬剤投与及び気管挿管の両処置可能な救急救命士認定者数			年度目標値	60	60	66	66	66	
				実績値	7	9	17			
	単位	人	全体目標値	66	全体目標達成度	100.0%	年度別達成度	11.7%	15.0%	25.8%
	救急救命士再教育病院実習者数			年度目標値	30	30	62	66	66	
実績値				25	25	58				
単位	人	全体目標値	251	全体目標達成度	45.8%	年度別達成度	83.3%	83.3%	93.6%	
成果指標	活動従事救急救命士数			年度目標値	60	60	66	66	66	
				実績値	57	60	62			
	単位	人	全体目標値	69	全体目標達成度	87.0%	年度別達成度	95.0%	100.0%	93.9%
	専科教育救急科有資格取得者数			年度目標値	187	207	220	240	240	
実績値				196	204	208				
単位	人	全体目標値	246	全体目標達成度	82.9%	年度別達成度	104.8%	98.6%	94.6%	

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載) A
	B 見直しのうえで継続	B 2 コスト削減・成果上昇	
	C 終了	B 3 類似事業との統合	
	D 休止	B 4 外部委託導入・拡大	
	E 廃止	B 5 受益者負担の適正化	
		B 6 終期設定	
		B 7 その他効率化	

担当課評価の根拠	心肺停止に陥った市民の救命率、社会復帰率の向上、また、症状の悪化を防ぐため、応急処置拡大に対応できる救急救命士を含む救急隊員の研修を積み重ね、レベルアップを図るために継続しなければならない事業です。
「見直し」 「改善」案 ※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ	